

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 森 正昭

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東海11
歩行区間詳細	スタート地点：名鉄・太田川駅
	ゴール地点：JR 四日市駅
実施期間	2016. 3. 24～3. 26（3日間）
全歩行距離	52km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	江守 善昭	78	2日間	
2	企画・渉外	鹿島 静哉	75	3日間	
3	記録	森 正昭	74	3日間	
4					
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	3月24日	名鉄・太田川駅～ 名古屋港海員組合宿泊所	16km	江守、鹿島、 森	ハーバーロジ名古屋 宿泊/4000円+朝食/500円
2	3月25日	名古屋港海員組合宿泊所～ 桑名三岐鉄道馬道駅	22km	江守、鹿島、 森	ビジネスホテル・ビエール 宿泊 5830円
3	3月26日	桑名三岐鉄道馬道駅～ JR 四日市駅	13km	鹿島、森	
4					

4. 参加費

参加者延べ日数 9日人

参加費合計

宿泊約10,000円、昼食・夕食とアルコール約10,000円
ほか交通費

5. 歩行の詳細

写真等を含めて、以下のページに記載願います。

<3月24日 名鉄太田川駅～ハーバーロッジ名古屋>

新幹線を名古屋駅で下車、名鉄・常滑線に乗り換え太田川駅に降り立つ。

50年ほど前に、新入社員教育で1か月間この近辺にいたはずなのだが、まったく思い出せない。確か大江という地名は覚えているが。

駅前の南側に日本福祉大学の看板を掲げた校舎が見える。建物ばかり目立ち無機質な感じの風景だ。学生風の3人の若者たちがチラシを配っていたので、彼らから、これから歩く道の様子を聞く。

歩きはじめると、風が冷たく、水っ漬が垂れてくる。やがて、正面に愛知製鋼の大きな工場が見えてきて、さて右に行くのか左に行くのか？

江守さんがスマホを見て、左だという。それに従い高架道路の下に行くと、自動車専用道路で、その先は愛知製鋼の敷地になっていた。

名古屋の港湾部は、工場が海を遮り、高速道路がと大小の河川が通行を制限している。東京の深川界隈のような風情に乏しく、歩くには向かない地域のような。

私はコースの下調べもせずに参加、前日に Google Map で、太田川駅から JR 四日市駅までの歩行ルートを実況してきただけだった。

今回初めて、Google Map を使ったが、出発地と到着地を指定し「歩行」指定するとそのルートが出てきて距離が表示される。海岸線歩行のベテラン、鹿島さんはしっかりこのツールを使いこなしていた。

聞くところによると、今日は桑名に住む伊藤喜文さんと落ち合い、昼食を共にすることになっていたらしい。

彼から、「三菱重工の工場のところで待っている」という電話があった。先の方を眺めるがそれらしき工場も見えず、三菱自動車のディーラーの事務所に凶々しくも飛び込み調べてもらった。

「喜文さん」は我々が歩いている 247 号線と並行した「高速 4 号線」にいたらしい。「案内人」もいい加減だが、ついていけばよいと思っていた自分も悪かった。(右の地図、柴田で気付き左折)

落ち合ったところの食べものや「味見屋」でやっと昼食。

食に一言ある江守さんは味噌カツを、私は鶏のから揚げを注文。

「喜文」さんの、「毎日何もしていないよ」というゆったりした話ぶりを聞いているうちに、自分も日々の忙しさから解放されていく気分になってきた。

午後からは、三菱重工・航空宇宙システム、東レ、東亜合成などの工場が連なる一角を、1時間ほどあるく。

午後3時に、今日の泊り、ハーバーロッジ名古屋に到着。

ここは、船が寄港すると船乗りの家族も来て一緒に泊まれる施設で、全国に8か所あるとのこと。ちなみにこの付近は海拔1m。

その後、今日のご褒美として、東海道・海上八里の出発点となる

「宮の渡し」や「熱田神宮」を回る。宿へ帰る途中「かがみ屋酒店」でこの店の常連さんたちと交流する。



<3月25日ハーバーロッジ名古屋～三岐鉄道北勢線・馬道駅>

ハーバーロッジ名古屋は、宿泊 4000 円、朝食 500 円、私のような年金生活者にぴったりのところだった。

この日は、名四国道 23 号を歩く。大型トレーラーやタンクローリーが地響きを立てて行きかう横を、身を縮めて歩く。名古屋港周辺は、高速道路や一般国道が密度濃く整備され、機能的なまちづくりが進んでいると感じる。しかし、高架の部分になると、人は一般道から階段を上り下りし越えることになる。人が気持ちよく歩ける道路は、見当たらない。

「この地盤は海拔 -01m」という表示も気になった。昨晚、酒屋さんで、「この辺で怖いのは津波ではなく、高潮だ」という話を聞いた。

記憶にある伊勢湾台風はかすかなので、インターネットで調べてみた。昭和 34 年（1959 年）9 月 26 日、台風 15 号として潮岬に上陸、930 mb、最大風速 60m/s、暴風圏 300km の大型台風となり、三重、愛知、岐阜の各県で 5000 人の死者が出た。特に愛知県は台風による高潮で海岸堤防は破壊され、約半年海水に浸かっていたようだ。まさに歩いた、蟹江町、飛島村、弥富市などはその被災地だった。

23 号線沿いには、釣具屋さんが多く、続いてガソリンスタンド、廃材処理、車の修理屋など、江守さんの好みの食べ物屋は見当たらない。

庄内川、日光川、筏川と渡ったところで、「和風レストラン木曾岬」に出会う。ここで、朝の朝食を補うため、1260 円のでんぷら定食を奮発した。

木曾川鉄橋は約 1100m、強風にあおられながら渡り切る。次が中学の社会で習った有名な輪中である。そしてすぐに、長良川と思っていたら、橋のたもとの看板は、「ながら・いび川」となっていた。約 1200m もある橋の中ほどから眺めると、1km ほど上流で二つの大河が合流しており、納得。

ここまで来て、旧東海道が「熱田の宮から桑名まで海上 8 里」の理由が分かった。当時はこのような大河に橋を架けることはできなかったのだ。

橋を渡ったところから、内陸に向かい旧東海道にでる。途中、前を歩く江守さんの足どりが危なくなった。2 日間の歩行の疲れが出てきたようだ。そこで今日のゴールは、近鉄・益生駅とする。15:30 歩行終了。

宿で、喜文さんが待っていてくれた。彼のクラシックな軽に 4 人が乗り込み、三岐鉄道北勢線の西桑名駅に向かう。

三岐鉄道のゲージ 762mm、並行する関西線が 1067 mm、近鉄線が新幹線と同じ 1435 mm の解説あり。夜は、「桑名の焼き蛤」を食す。砂浜のなくなった海岸線、ドコ産なのだろうか？



<3月26日 近鉄・益生駅～JR 四日市駅>

この日、江守さんは休養、喜文さんと「現地調査」となった。鹿島さんと私で益生駅を8:20 スタート、旧東海道を歩く。

今日の柔らかな春の日差しと青空で、気持ちもすっきり、水っ洩も収まった。

西の方に御在所の山々、右手に雪の残る伊吹山が見える。

途中、電話が鳴り、喜文さんから「イオンで待っているよ」の声。合流したところで、四日市名物・笹井屋の「なが餅」を土産にもらう。大福を細長く伸ばしたようなかたちで、そう長持ちはしないとのこと。しかし、1週間後に電子レンジで温めて食べたら、まだ十分おいしく、ひなびた味がした。

汗ばむほどの日差しの中を2人でせつせと歩く。

昨日立ち寄った、「治水神社」のことを思い出した。紹介文と鹿島さんの解説によると、1754年に薩摩藩が幕府の命により、木曾三川の分流工事をおこなった。1年3か月で工事を完了し、費用は40万両、当時の薩摩藩の収入の2年分を越えたという。予想外の費用が掛かったため、総奉行はその責任を負い、腹を切ったそうだ。治水神社には総奉行だった平田靱負が祭られ、○に十の字の島津の紋どころが下がっていた。鹿島さんは鹿児島出身、平田靱負についてとつとつと話してくれた。

途中から、1号線を離れ今回のゴールに向かう。まちなかに入ると、Google Mapは粗すぎて、役に立たない。人に聞きながら、JR 四日市駅を目指す。

JR 四日市駅前、春の日差しに広々とした空間がまぶしい。人の姿がまばらのも、のどかでよい。

ここで、伊藤喜文さんと江守さんが待っていてくれた。

11:45に到着。今日の歩行距離は13km。

喜文さん、今回は大変お世話になりました。こうして、地方に住む仲間と会えるのも、「海岸線を歩く旅」の楽しみの一つと思いました。

もう一点は、名古屋周辺の人や車の動きから、産業活動のエネルギーを感じ取れたことでした。

